

働き方改革 × 電子化(スキャニング)

働き方改革は、様々なメディアで採り上げられる、最近のキーワードとなっています。弊社のスキャニング事例でも「働き方改革」が理由の事例が多くなってきました。といいますのも、働き方改革には、文書の電子化が不可欠だからです。



事例 1

〈契約書の電子化〉

紙の契約書を総務が保管し、営業からの問合せにキャビネット内の紙契約書を探して対応

→スキャニングサービスを利用して電子化し営業ともデータ共有し営業が簡単に閲覧可能になった→問合せ対応が減り、総務の手間が大幅削減

事例 2

〈研究開発資料の電子化〉

書庫にある過去の研究開発資料は類似案件、参考案件があると担当者が書庫で探して対応

→スキャニングサービスを利用して電子化し部門内で共有
→検索時間の削減、重複研究を回避し効率化

事例 3

〈過去図面の電子化〉

客先や営業からの問合せに対し、技術担当者が書庫やキャビネット内にある図面を探して対応

→スキャニングサービスを利用して電子化し部門内で共有
→顧客対応・営業対応が迅速に行えるようになった

人手不足に対応し、事務作業の効率化が急務になっています。

紙文書の電子化による効率化を検討してみたいでしょうか？



株式会社 宏和

Kowa Corporation

東大阪市長田東 1-7-22 TEL 06-6789-2313 FAX 06-6789-2339

<http://www.d-kowa.co.jp/>

<http://scanning.jp/>

オンデマンド印刷 会社案内、パンフレット、チラシ、名刺、カード、封筒、シール、伝票、表彰状
冊子印刷 取扱説明書、カタログ、記念誌、広報誌、報告書、論文、自分史
電子化業務 紙文書・紙図面スキャニング(電子化)サービス、データエントリー(入力)、データコンバート
CAD業務 CADデータ出力、CADデータ入力(トレース・設計)、電子納品データ作成
コピー・製本 大判コピー、カラーコピー、各種製本、ラミネート、パネル・看板制作
その他 人材派遣、人材紹介、マイクロ撮影、マイクロフィルムスキャニング、WEB制作

(株)宏和が毎月お客様へお役立ち情報をお届けします。

コウワノノ

MONTHLY NEWS LETTER Vol.30

2018

3

March

コウワノノ

3

Vol.30

発行者：株式会社宏和
所在地：〒577-0012 東大阪市長田東1-7-22 TEL 06-6789-2313

(株)宏和

今年の冬は寒さが厳しかったですね。インフルも大流行し、体調を崩された方も多かったのではないのでしょうか。いよいよ3月で春の足音が近づいてきました。多くの感動を与えてくれた平昌オリンピックも終わり、今月はパラリンピックです。アスリートの熱い戦いに刺激を受けて、当社も繁忙期を充実して乗り切っていきたいと思っています。

代表取締役 日笠宏昭

難読も多いが 味のある「大阪の地名」

読み方が難しく、よくクイズ番組などで登場する大阪の地名。

今日は、あらためて地名とその由来をまとめてみました。

味のある地名がたくさんあって選ぶのが難しいですが

抜粋させていただきました。



淀川区

十三

じゅうそう

由来は数説あります。十三は「つつみ」のことで、十三は淀川堤の「つつみ」という説、戦国武将供養の十三塚由来説、淀川上流から数えて13番目の渡しがここにあったとする説、条里制で十三条にあたるとする説などがあります。

鶴見区

放出

はなてん

旧大和川の氾濫を調節する旧河内湖の水の放出口があったとする説があり、暗渠のことを方言で「放出（はなで）」というのでこの説は有力です。近世の郷帳などでは、「はなちでん」「はなちで」とよんでいましたが、その後「はなてん」に訛ったということです。

西成区

天下茶屋

てんがちゃや

芽小兵庫が近世初頭の茶人武野紹鷗の隠棲地に茶店を出し、太閤秀吉が住吉大社参拝や堺への往来の際、ここの茶店で休息したことから太閤殿下茶屋といい、転じて天下茶屋と呼ばれるようになったということです。

西淀川区

御幣島

みてじま

奈良時代から見える地名。神功皇后が朝鮮半島からの帰途、ここで御幣（みてぐら：神の座に手向ける物の総称、御手座）をみつぎ、航海の守護神・住吉大神を奉祀したと伝えられています。

中央区

千日前

せんにちまえ

江戸期以降の地名。千日寺（法善寺と竹林寺）の門前の意味。両寺は、千日ごとに念仏法要をしていたことから千日寺と呼ばれました。1600年代に墓地整理により大坂七墓のひとつになり、千日墓地と呼ばれ、焼場・刑場にもなりました。

城東区

蒲生

がもう

鎌倉末期から見える地名。蒲穂の産地から付きました。（ガマは多年草の抽水植物で、円柱状の穂は蒲の穂と呼ばれています。）『五畿内志』では「土産」の項で、蒲生村産の赤と黒の蒲が紹介されています。大坂七墓のひとつ、蒲生墓があり、盂蘭盆には巡礼船でにぎわったそうです。

東住吉区

杭全

くまた

奈良時代からの地名。かつては数条の河川が分かれていた地形と思われるが、川俣・河派（カハマタ）が訛ってクマタとなったようです。『古事記』に和建命（やまとたけるのみこと）の孫として、この地の「杵俣長日子王（くひまたながひこのきみ）」が登場します。

天王寺区

玉造

たまつくり

奈良時代から見える地名。『大日本地名辞書』にも「玉造部の墟（あと）なりし」とあります。玉造部は、大和朝廷へ勾玉（まがたま）や管玉など玉を作って納めた品部（しなべ／ともべ）です。古代の玉造は、現在の大阪城付近から天王寺区の玉造本町付近まで含む広大な一帯と推定されています。

池田市

呉服

くれは

古くから呉服部（くれはとり・宮廷需要をまかなうために織部司の配下におかれた織物職人）が住み着いたことからきています。呉の国から4人の織女が渡来したという伝説もありますが定かではありません。

東大阪市

石切

いしきり

石切神社は「石切さん」「デンボ（腫れ物）の神さん」の名で知られていますが、祭神は饒速日命（にぎはやひのみこと）で、石を切るほどの霊力をもつ剣と箭（や）をご神体とするのでこの名があるそうです。

住吉区

遠里小野

おりおの

『万葉集』にもある古代からの地名。「遠くに里の見える広い野」の意味とのことです。江戸期の大和川開削により南北に分断されました。山崎（京都府乙訓郡）と並ぶ日本最初の製油地でしたが近世に衰退しました。

此花区

四貫島

しかんじま

1624年に九条村とともに開発されました。由来は2説あり、この島の開発後にさる人が四貫文で買い受けたという説と、安治川の州で発見された観音菩薩像がここで止まったことから止観島とし、後に四貫島の字を使ったという説です。